

日野川の移り変わり

日野川の道

港南区

日野川流域の歴史

江戸時代、現在の港南区の南北には武蔵と相模の国境が走っていました。国境の東側には、日野川に沿って「宮ヶ谷」「金井」「宮下」「吉原」の四つの村がありましたが、明治に入ると四つの村が合併して「日野村」となりました。

明治6年には、宮ノ前（現在の日野インターチェンジ付近）に日野小学校の前身である日野学舎が開校しました。横浜港を中心に市街地が拡大するとともに、現在の港南区付近でも西洋風の花の栽培が盛んになりました。この頃には、日野や笹下には花畑や水田などの農村風景が広がっていたと言われています。

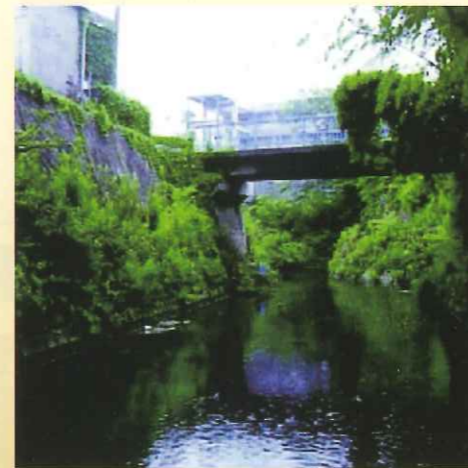
日野川は川幅が狭く、蛇行を繰り返していたことから、古くから大雨時には洪水に見舞われていました。さらに高度経済成長期の急激な宅地開発により、大洪水が発生するようになりました。

また横浜の名産品であるスカーフ等の繊維製品の^{なっせん}捺染工場が流域に多くみられ、洗浄用として河川水を利用していましたが、上流域の開発に伴う水質悪化により、河川水を利用できなくなりました。

その後、下水道の普及等により水質が改善し、近年ではカルガモやセキレイ、ドジョウなどが見られるようになってきました。また大岡川分水路が整備されたことにより、下流域の水害は著しく減少しました。



昭和56年ごろの日野川



平成8年ごろの日野川

日野川の取水口



御所ヶ谷橋下流右岸に残っている取水口（左の写真）は、昭和40年代、日野川下流の浸水被害軽減を図るために作られたものです。この取水口は、当面は未供用となっていた下水道管（日野中原幹線）を暫定的に活用し、降雨時の日野川の洪水を取水させ、根岸湾まで流す役割を果たしていました。昭和56年に大岡川分水路が完成し、現在はその役目を終えています。

日野川の生き物たち

かつての日野川には、豊かな自然の環境がありました。ハヤやヤマメ、サワガニ、ホタル、トンボ、ヘビやカワセミなど様々な生き物が生息し、またそのような中で子供たちが川で遊ぶ光景もありました。

平成18年度に行った「日野川生物生息環境調査」でも多様な生き物の生態が報告されており、中には絶滅危惧種に指定されているものが生息していることも分かっています。



カルガモ



ハクセキレイ



コガモ(左)とヒドリガモ(右)



アオジ



ドジョウ



スミウキゴリ
(神奈川県準絶滅危惧種)



モクズガニ



アカアカネ 雌



ハグロトンボ
(神奈川県レッドリストで要注意種)



シオカラトンボ 雄



ススキ・ヒメツルバ群落



アイノイトモ
(横浜市絶滅危惧種)

「平成18年度 日野川生物生息環境調査委託 報告書（横浜市環境創造局）」より抜粋



二級河川大岡川水系の準用河川日野川は、港南台の団地付近を源流とする県管理の二級河川日野川上流部にあたる小河川で、港南区日野5丁目(日野橋)で二級河川日野川と接続しています。その後、二級河川日野川は日吉橋下流で大岡川分水路に分水され、上大岡駅前で二級河川大岡川に合流し、横浜港に流れ出ています。

準用河川日野川の流域は、JR根岸線や市営地下鉄ブルーラインによる横浜駅や東京都心部への交通利便性を有し宅地造成の容易な台地・丘陵となっており昭和40年代以降の高度経済成長により急激な宅地開発が進められました。そのため流域の保水遊水機能低下で日野川への流出量は増大し、河川からの溢水等に対する安全度を高めるため抜本的な治水対策が必要となりました。

一方、市の中心部を流れる二級河川大岡川の下流域は、行政機関や観光地など多様な特徴を持つ横浜の都心部となっており、市街化の進展により河道の拡幅を行うことは困難であったことから、大岡川の治水対策として二級河川日野川上流部で洪水時の流出量をほぼ全量カットし、直接根岸湾へ放流する大岡川分水路が昭和56年に完成しています。

また準用河川日野川については、平成元年に改修事業に着手、平成13年より本格的な日野川改修工事を実施し、概ね時間降雨量50mmで溢れないことを当面の整備目標として改修を進めております。



“日野川の道”検討会の様子

準用河川日野川は、日野橋から御所ヶ谷橋にかけて、改修工事を現在行なっています。改修工事にあわせて両岸に整備される遊歩道や途中の広場については、地域の皆様にとって愛着のある川となるよう、流域の自治会町内会からの代表の方を主なメンバーとした“日野川の道”検討会を立ち上げ、利活用についての議論や現地調査等を行いながら、基本構想を策定しました。平成24年度には、現地調査を含む全4回のワークショップを行い、検討会の皆様から様々なご意見をいただきました。

この検討会は、遊歩道や広場が完成するまで、地域の皆様のご協力をいただきながら、活動を継続していく予定です。



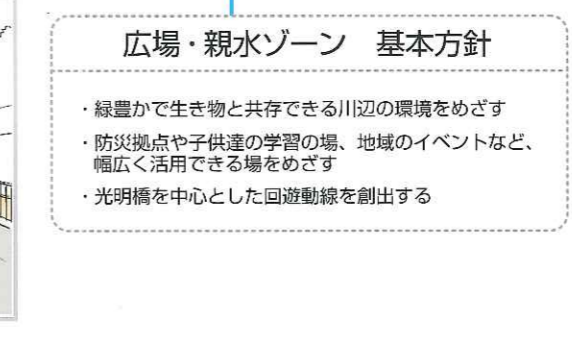
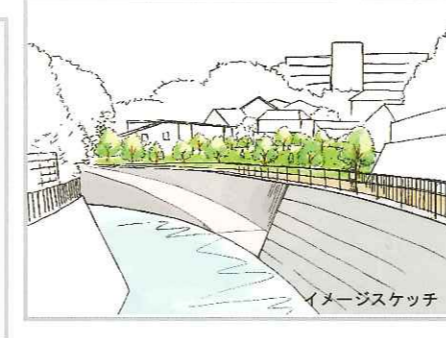
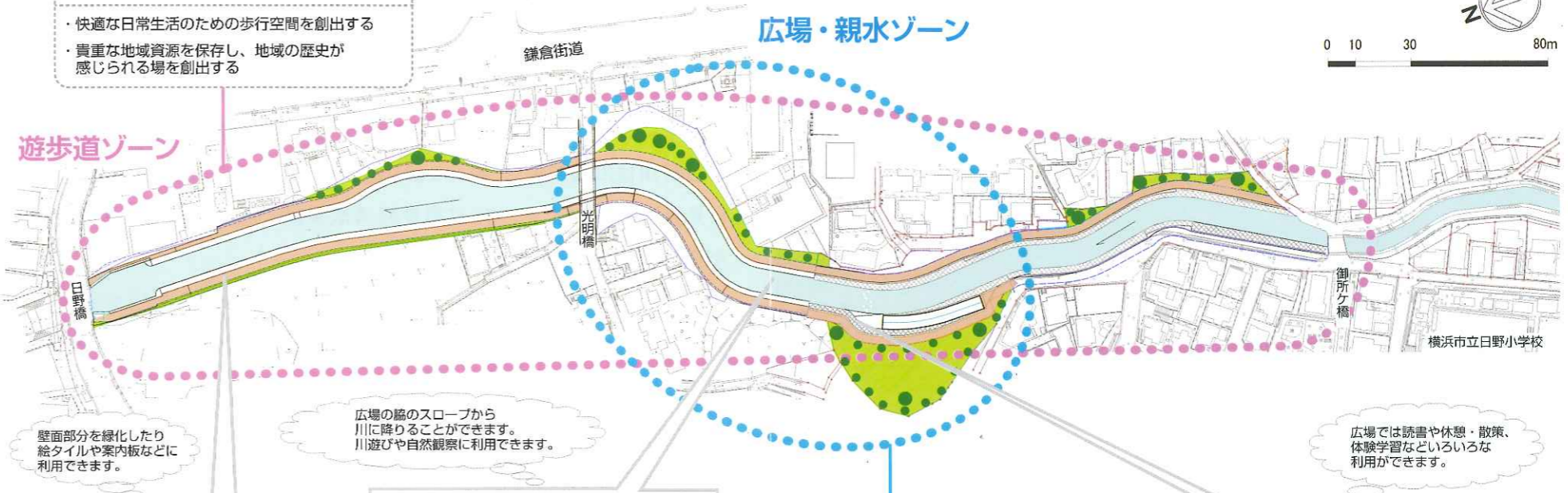
検討会では、日野川遊歩道整備のコンセプトとして「安心安全な環境を目指す」「子供から高齢者まで憩い楽しめる空間を創出する」「緑や花を中心とした季節の感じられる豊かな景観を創出する」を掲げました。また、区間全体を「遊歩道ゾーン」「広場・親水ゾーン」に分けて、将来、地域の皆さんが憩い活用している姿を思い浮かべながら、それぞれの整備方針について検討を重ねました。

全体方針

- ①安心安全な環境を目指す。
- ②子供から高齢者まで憩い楽しめる空間を創出する。
- ③緑や花を中心とした季節の感じられる豊かな景観を創出する。

遊歩道ゾーン 基本方針

- ・快適な日常生活のための歩行空間を創出する
- ・貴重な地域資源を保存し、地域の歴史が感じられる場を創出する



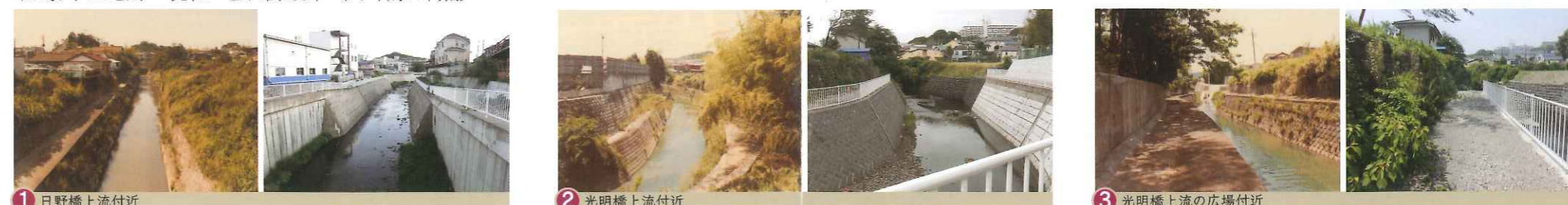
広場・親水ゾーン 基本方針

- ・緑豊かで生き物と共存できる川辺の環境をめざす
- ・防災拠点や子供達の学習の場、地域のイベントなど、幅広く活用できる場をめざす
- ・光明橋を中心とした回遊動線を創出する

将来にわたり“ふるさと”を感じられる日野川を目指して、地域のみんで良好な環境を育てていきます。



日野川の過去・現在 左が昭和56年・右が平成24年撮影



1 日野橋上流付近

2 光明橋上流付近

3 光明橋上流の広場付近